

(国語科)

「自分の考えを表現する力の育成」
～情報を正しくつかみ、考えたことを発信する子どもの育成をめざして～

大阪市立生江小学校

1. 研究主題設定の理由

本校では、教育目標「人権尊重の精神と態度を養い、明るくたくましく生きる子どもを育てる」ことを柱に、「命と人権を大切に、共に生き、共に学び、励まし合う子」をめざして、日々の教育活動を進めている。

昨年度からは、書くための基礎基本、語彙力を身に付けたり、書く楽しさ、意欲を育てたりするような実践をしてきた。くわえて、視写を取り入れた授業づくりの研究も進めてきた。その成果として、子どもの書くことに対する抵抗感が少なくなり、視写の速度も速くなってきた。

一方で文章を読んで理解したことについて、自分の考えをもったり、まとめたりすることにおいて、課題を感じる。これらの力は、文章の読み取りとも深く関わるものである。自分の考えを書くためには、文章から大切なことを落とさずに読み取ったり、文章のまとまりをとらえて読んだりする力も重要である。読み取ったことから自分の考えを書き、それをもとにして児童一人一人がさらに自信を持って表現活動ができるようにする必要がある。そこで今年度は、研究の主題を「自分の考えを表現する力の育成～情報を正しくつかみ、考えたことを発信する子どもの育成をめざして～」として、説明的文章を通して、研究を重ねることにした。

2. 研究の趣旨

自分の思いや考えを伝えるには、文章の内容や筆者の考えをつかみ、理解することが大切である。そこで、正しく文章を読み取った上で、自分の考えをまとめることができるように、説明文教材に絞り、授業研究を進めることにした。また、児童が見通しをもって主体的に学習に取り組めるように学習の流れを決め、授業を組み立てるようにした。特に、自分の考えを形成する学習では、「課題をつかむ→音読(視写)→考えを書く→交流→考えをまとめ、振り返る」という流れで授業の研究を進めている。視写は、昨年度全学年で取り組んでおり、今年度も正しい解釈や考えの形成に有効な場合、取り入れるようにしている。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 読み取るための工夫

○自分の考えをもつためには、本文の内容を正確に読み取ることが大切である。そのために教材分析を行い、本文を読み取るための手立て(文章の中の重要な語や文を考えて選び出すための工夫など)を指導案に明記する。そして、効果的なものであったかを検討する。

視点② 自分の考えをもつための工夫

- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の体験や既習の内容と結び付けて自分の考えを書いたり、まとめたりすることができるような手立てを考えていく。そして、効果的なものであったのかを検討する。
- 個に応じた支援として、ワークシートやヒントカードなど、自力解決のための支援の仕方を工夫するとともに、理解がより深まるような活動を取り入れる。

視点③ 関わりあう活動の工夫

- 学習形態の工夫(発表や交流)
学年の実態や単元の内容に応じて、ペアやグループ、全体など、子どもたちが主体的に学べる学習形態を工夫する。
- 具体的な活動支援
説明する際に使う言葉を提示し、考えを伝え合うことができる支援をする。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 写真や教科書の本文を載せたワークシートを使うことにより、視覚的に分かりやすく、読み取りの手助けになった。
- 大切だと感じた言葉や文にサイドラインを引かせることで、自分の考えを整理することができた。
自分の考えを深めるために「どこに書いてあるのか」「どうしてそう考えるのか」など根拠となる場所をみつけ、理由を明確にすることができた。
- 自分で要約をする際にワークシートの文字数や行数の制限をした。書き出しがあるものとなないものを自分で選べるようにし、文字数や行数の制限を行うだけで長々と文章を書くことなく、見通しをもってまとめることができた。また、自分の立場をはっきりさせるために投稿を貼り付けられることやワークシートに写真を貼ることで、視覚的にも分かりやすく意欲的に取り組むことができた。
- 「交流での返す言葉」を全学年で掲示することにより、児童がその言葉を使ってペア交流やグループ交流を行った。書いたものをもとに自分の考えを伝えるだけや相手の考えを聞くだけの一方通行の伝達ではなく、相槌を打ったり、理由を聞き返したり、補足をしたり、質問をしたりすることができるようになった。「交流での返す言葉」があることで、自信をもって交流活動を行うことができ、より相手の話をじっくり聞き、共感したり比較したりできるようになってきた。
- 全体交流では、全学年ハンドサインを掲示し活用した。ハンドサインを使うことで意思表示にもなり、児童が受け身になることなく授業に参加できるようになった。また、相手の意見をじっくり聞けるようになり、一人一人が自信をもって自分の意見を言えるようになってきた。

(2) 今後の課題

- 振り返りで学習の感想を発表する児童が多くなってきた。今後は、課題を意識し、学習の中で学んだことや、交流等で友だちの意見を聞いて変容したことが書けるようにしたい。また、系統だった振り返りの観点を持つことで、学びを定着させ深められるようにしていく。
- 学びを支援するために、積極的に ICT を活用し、多様な授業を行っていく。